# 令和６年度　田原市議会運営委員会視察報告書

日　程　令和６年 10 月 31 日（木）、11 月１日（金）
視察先　１「ICT を活用した議会改革の取組について」
　　（茨木県取手市）
　　２「議会改革の取組（委員会年間活動計画、市民参加等）について」
　　（埼玉県戸田市）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 参加者 | 委員長 | 村上　誠 | 副委員長 | 平松昭徳 |
| | 委員 | 辻　史子 | 委員 | 古川美栄 |
| | 〃 | 内藤喜久枝 | 〃 | 鈴木和基 |
| | 〃 | 小川金一 | | |
| | 議長 | 中神靖典 | | |
| | 事務局 | 稲垣守泰 | | |
| | 〃 | 朽名武彦 | | |

１「ICT を活用した議会改革の取組について」
（茨木県取手市）
令和６年 10 月 31 日（木）　13:30 ～ 16:10

| | | | |
|---|---|---|---|
| 対応者 | 取手市議会　議長 | 岩澤　信 | 氏 |
| | 議会運営委員会　委員長 | 赤羽直一 | 氏 |
| | 議会事務局　事務局長 | 前野　拓 | 氏 |
| | 議会事務局　事務局次長 | 澤部　慶 | 氏 |
| | 議会事務局　書記 | 澤田麻美 | 氏 |

（１）概　要

取手市は、茨城県の南端に位置し、人口は 105,981 人（令和６年４月１日現在）、市域は 69.94 ㎢、東西 9.3km、南北 14.4km であり、利根川とその支流にある小貝川の二大河川が流れる水と緑に恵まれたまちである。

茨城県南部の玄関口としてばかりでなく、東京、成田、つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置していることから、交通の要となっており、首都圏の都市の中でも交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境をもつ地域である。

議会改革度調査において常に上位にランキングされている取手市議会は、オンラインによる各種取組（委員会等の開催、ハイブリッド型の現地視察、市民との意見交換会、市民参加型の会議録作成、中学生との協働事業など）の実施、官民学連携協定による新しい議会のあり方への調査研究、AI 字幕表示システムや会議録視覚化システム、360 度カメラの導入など、ICT を活用した様々な議会改革の取組を実施している。

（２）参考になった点

○　オンライン委員会や各種オンライン会議の開催、提出予定議案のオンライン事前説明、ハイブリッド型の現地調査、市民との意見交換会など、議会活動のあらゆる場面で ICT を活用し、事務の大幅な効率化や経費の削減等を実施している。

○　企業や大学との連携協定を締結し、ICT を活用した新しい民主主義の手法構築に向け、関係法令等の課題抽出や改正案の策定、情報共有・調査研究、最新技術の検証等を実施している。

○　委員数名が視察先に行き、他の議員や執行部職員はオンラインで参加するハイブリッド型の現地視察とすることで、効率的かつ効果的な調査研究を実施している。

○　AI 字幕表示システムを導入し、音声をすぐに文字化、会議録は外注せずに自前作成しており、事務局職員が会議と同時進行で音声更正（リライト）を実施、速報版の会議録は当日中に議員に共有されている。

○　オンラインによる市民との意見交換会や市民参加型の会議録作成、中学生との協働事業（模擬議会）の実施、また、議会だよりや SNS 等による積極的な情報発信により、住民参加型の開かれた議会の実現に取り組んでいる。

○　議会広報を WEB 主体とし、市内各所に配置する補完的役割として、紙媒体の概要版を作成しているが、法的根拠のない一般質問は掲載せず、大幅な頁数（経費）の削減を実施している。

（３）所　感

○　オンラインによる効率的かつ効果的な取組は、行政面積の広い本市にとっては、特に有益なものと感じた。多様な人材の議会活動への参画を促すツールとしての可能性など、未来型の議会のあり方を創造することができ、大変参考になった。

○　議員と事務局職員の信頼関係の上に構築された「チーム議会」としての意識の醸成や即断即決を促す「まずは、やってみる」の精神が、コロナ渦を契機として官民学連携協定というチャンスを引き寄せ、タブレットの導入から各種オンライン化への圧倒的な加速を実現させた原動力と感じた。失敗を恐れず、課題を先送りしない議会組織としての意識改革の重要性を再認識した。

○　大規模災害等に備えるためにも、常日頃から ICT を活用した取組を推進すべきと感じた。苦手意識はあるが、取手市議会のチャレンジ精神や取組を参考としながら、挑戦を可能とする、変化に対応できる議会を目指し、更なる検討を重ねていきたい。

視察研修の様子

視察研修の様子

２「議会改革の取組（委員会年間活動計画、市民参加等）について」
（埼玉県戸田市）

令和６年 11 月１日（金） 9:50 ～ 11:20

| | | |
|---|---|---|
| 対応者 | 戸田市議会　議長 | 石　川　清　明　氏 |
| | 議会改革特別委員会　委員長 | 三　浦　芳　一　氏 |
| | 議会事務局　主幹 | 市　川　裕　一　氏 |
| | 議会事務局　主幹 | 武　田　　怜　　氏 |

（１）概　要

戸田市は、埼玉県の南部に位置し、人口は 142,036 人（令和６年３月１日現在）、市域は 18.19 ㎢、東西 7.2㎞、南北 3.9㎞である。荒川を境に東京都に隣接しており、都心から 20㎞圏が市の北部に当たる。また、東は川口市、西は荒川を隔てて和光市及び朝霧市、南は東京都板橋区、北はさいたま市及び蕨市に接しており、便利な交通アクセスと水や緑に恵まれた住みやすい環境を兼ね備えた地域である。

戸田市議会は、毎年２月に各委員会において「年間活動テーマ」を定め、テーマに対する「年間活動計画」を策定、原則、月１回委員会を開催し、現状把握や先進地視察等の調査研究を踏まえ、翌年１月には、執行部に対し政策立案や政策提言を実施している。また、議会運営等に対し市民の意見を反映する仕組みとして「議会モニター制度」の導入や中学生との意見交換会「とだみらい会議」の開催など、積極的な市民参加の取組を実施している。

（２）参考になった点

【委員会年間活動計画】

○　導入前の委員会は、いわゆる追認機関（受け身）の状態であったが、平成 21 年から各委員会で「年間活動テーマ」を定め、テーマに対する「年間活動計画」を策定、原則、月１回の委員会開催や複数回の視察検証を実施することで、議会としての監視機能や主体性が高まり、議員間討議が活発になるとともに、政策立案や政策提言機能の強化を図っている。また、各委員会で必要と判断した場合は、提言に対するその後の検証や成果確認、再度の提言も実施している。

○　委員会活動が市民にあまり認知されていない状況を受け、年間活動計画や成果をホームページ等で公表、議会がどのようなスケジュールで何に取り組んでいるのか確認ができ、市民への説明責任や議会活動の「見える化」を図っている。

○　政策提言能力等の更なる向上を図るため、議会におけるデータ活用（議員の経験や感覚のみでなく、統計データ等の客観的事実も加えること）を今後の課題とし、議会アドバイザーを交えながら検討をしている。

【市民参加等】

○　議会の運営等に関し、市民からの要望、提言その他の意見を広く聴取し、市議会の円滑かつ民主的な運営を推進するため、議会報告会に代わる形で「議会モニター制度」を導入している。議会だよりの編集方法や掲載内容など、議会モニターの意見・提言により改善された事項もある。

○　議会モニターについては、定員に対し応募が少数で 60 歳代男性が多く、また、議会運営以外の意見（一般質問や市の施策に関する意見）が多いなどの課題もあり、これまでにも応募票の工夫や意見交換会の手法の見直し等を実施している。

○　議長の所信表明で「市民との意見交換の場づくり」について提案があり、市の未来について意見交換をすることで、議会を身近に感じてもらうとともに、自分たちの住みよいまちづくりや政治に対する関心を高めることを目的として、中学生との意見交換会「とだみらい会議」を開催している。

○　多様性や男女平等の尊重への意識改革など、男性社会を前提とした議会における服装規定を撤廃し、議会初の取組として服装の自由化を実施している。

○　議決機関としての責務の遂行という観点から、議案審査を最優先とし、一般質問と委員会審議の日程の入れ替えを実施している。頻発する地震や集中豪雨のほか、感染症の拡大等に備え、議案上程、質疑、委員会付託、委員会審査までの一連の流れをスムーズにすることで、議会運営の円滑化を図っている。

○　議会だよりの題字に小中学生の習字による直筆の「とだ」を採用しており、児童生徒やその保護者に対し、議会に関心を持ってもらう一助としている。

（３）所　感

○　年間活動テーマを定め、共通の目標が示されることで、委員同士の意思疎通や主体性が高まり、議員の資質向上や議会の機能強化につながっていると感じた。

○　委員会における所管事務調査や審議に重点を置くことで、議員間討議や議会の活性化を推進している。立法趣旨に則った本来の議会のあり方や今後の議会改革の方向性を検討する上で、大変参考になった。

○　年間活動計画やその成果を公表し、議会活動の「見える化」を図っている。市民に議会活動を理解してもらうためにも有効な取組であり、また、議員個人で活動するよりも、執行部等の協力が得やすくなると感じた。

○　市議会モニター制度や意見交換会の実施に際し、その都度、目的や手法の見直し等を実施している。常日頃から課題意識を持って取り組むことの重要性を再認識した。

○　議会改革の取組全般において「市民」を強く意識しているように感じた。本市議会においても「市民による、市民のための議会」を念頭に、議会機能の強化や市民参加の取組、情報発信の仕方など、更なる検討をしていく必要性を感じた。

視察研修の様子

視察研修の様子